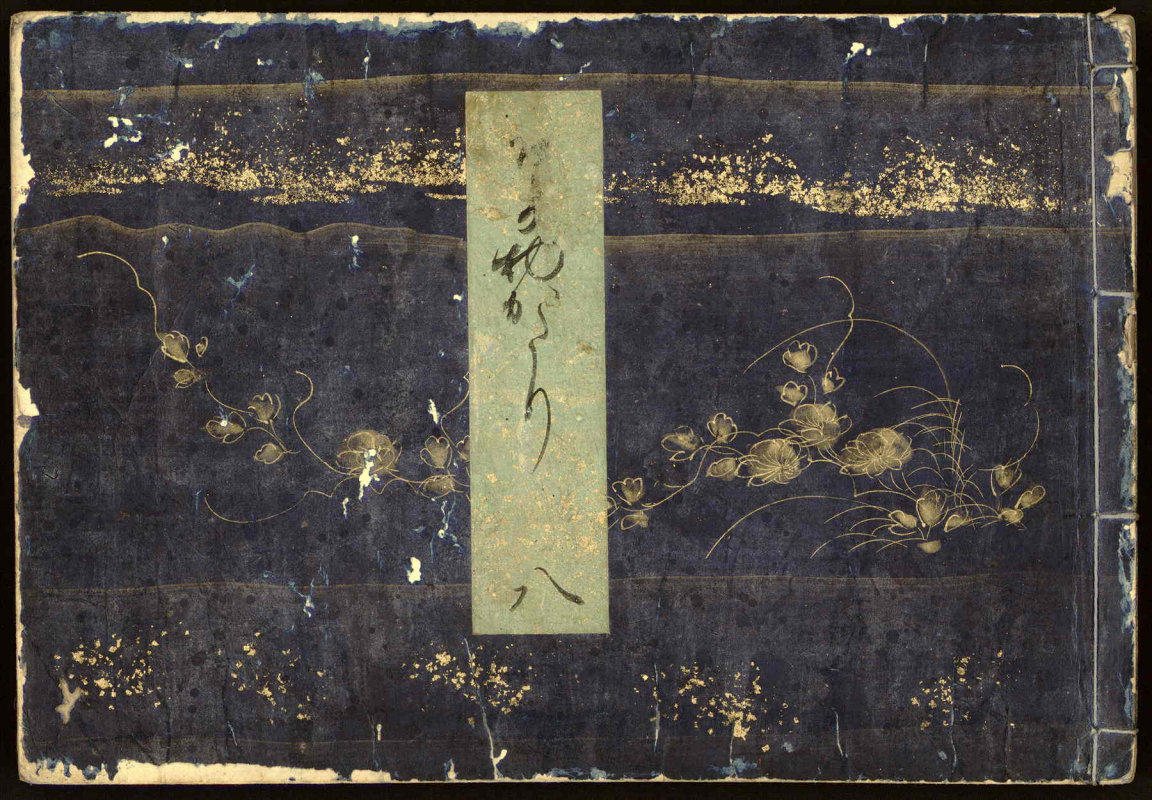

八

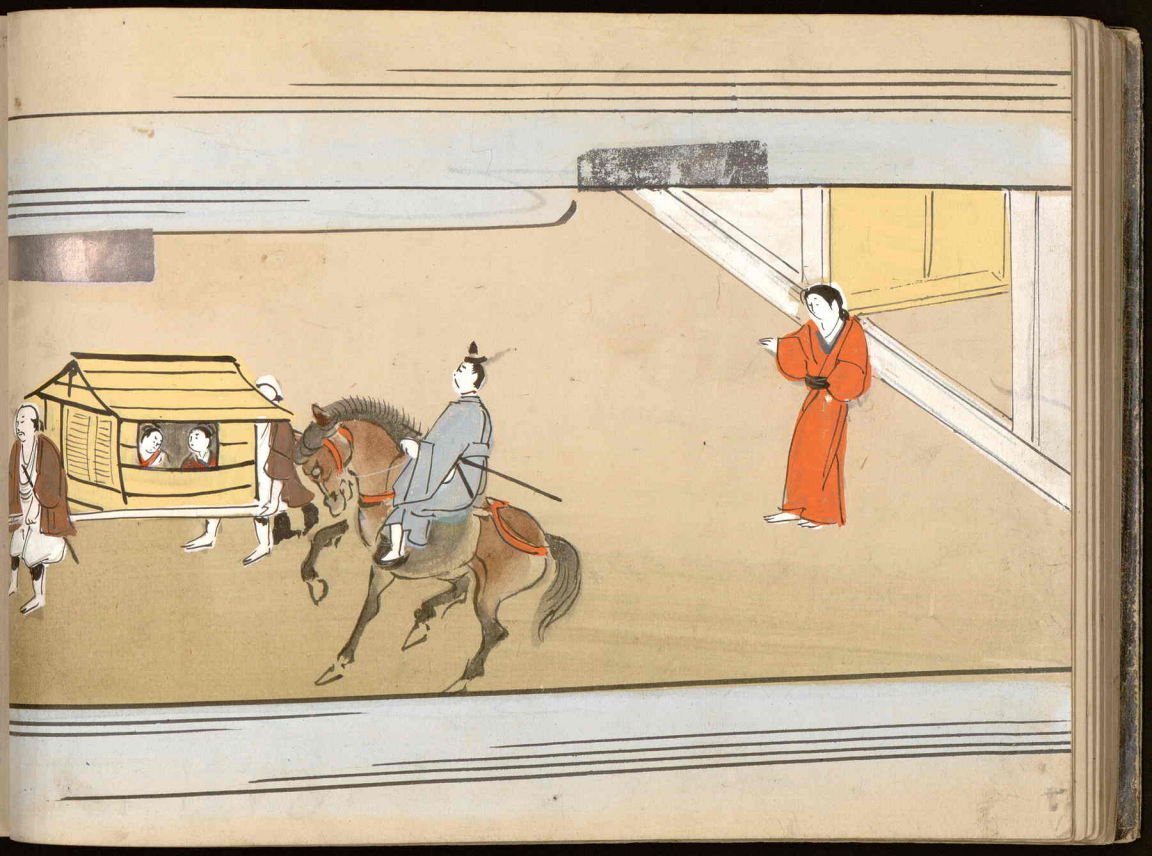
8

PL755
.35
505, v. 8

しるべとのゆきとりまそのやの
きりけるやそのかよみそれ
ゑみのこそのろみわるれ
てしそとてしそわるる
ゆきあそのあのりやそ
つゆのとまれのこよすと
とそとそとなそとそとて
つそとそとそとそとそ
なそありまそまりゆて
そとまそまそとそとそ
そとそやそのはそのしそ
そそとそとそのけそ
そとそとそとそとそ

せちりきてしまものをう
のりのそてうきてうきて
うらとうきてけのあまとを
とうりおそるあんうらやうち
そあうんうきーまんぐやう
そくうんせいうのたうりおし
りやうひうんとうあ
いりるうくうきうみんり
ちうんうあうこうしんと
そうそうたうりうれうあ
いうりうやうしうやうと
まとうとうりうりやう
とうしうあうりまうち

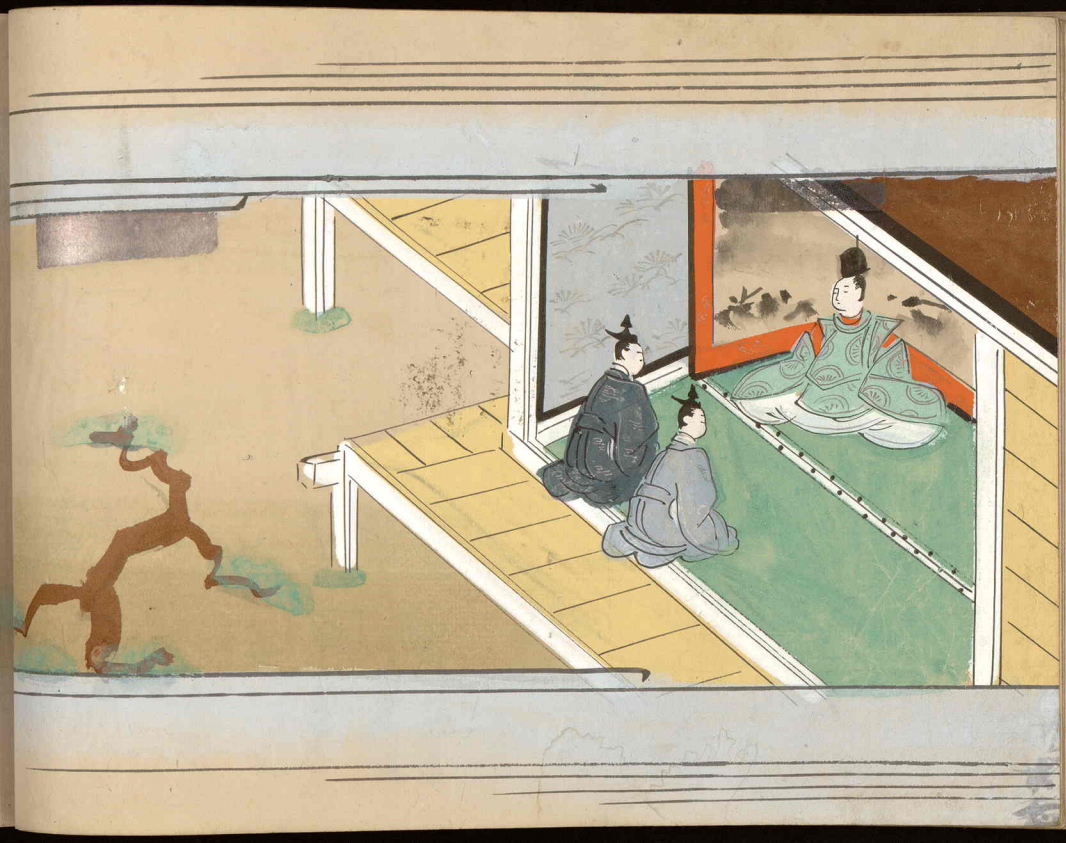
なくしの松をうりて
わたくしうちより無ことを
とくしうちのわたくし
まものをうちてうちこと
ちうとをみとりうちこと
みのうちうちをみうちこと
わうこをみうちうこうをいたす
あうこうをいたしうちうち
れたのうちをうちうちて
うちうちをうちのうちを
うちうちをうちのうちをす
うちうちをうちうちをす
うちうちをうちうちをす



やうにとてはらはれけるとき
いかなるうらせてもの人うんとなる
こころはうらまれとせてこと
とものてつまるこいのうらうへ
あるあてもあのこころうつる
ひとつとるものこのあまう
こころはまてもとうらの百年
はれもとかいうこあるあ
うつるものうらこのうれうる命
とうらあのくうまてこ
ひとうらのこをとうるの
もうとうるこうつうまこと
かうかりのあうこのあ

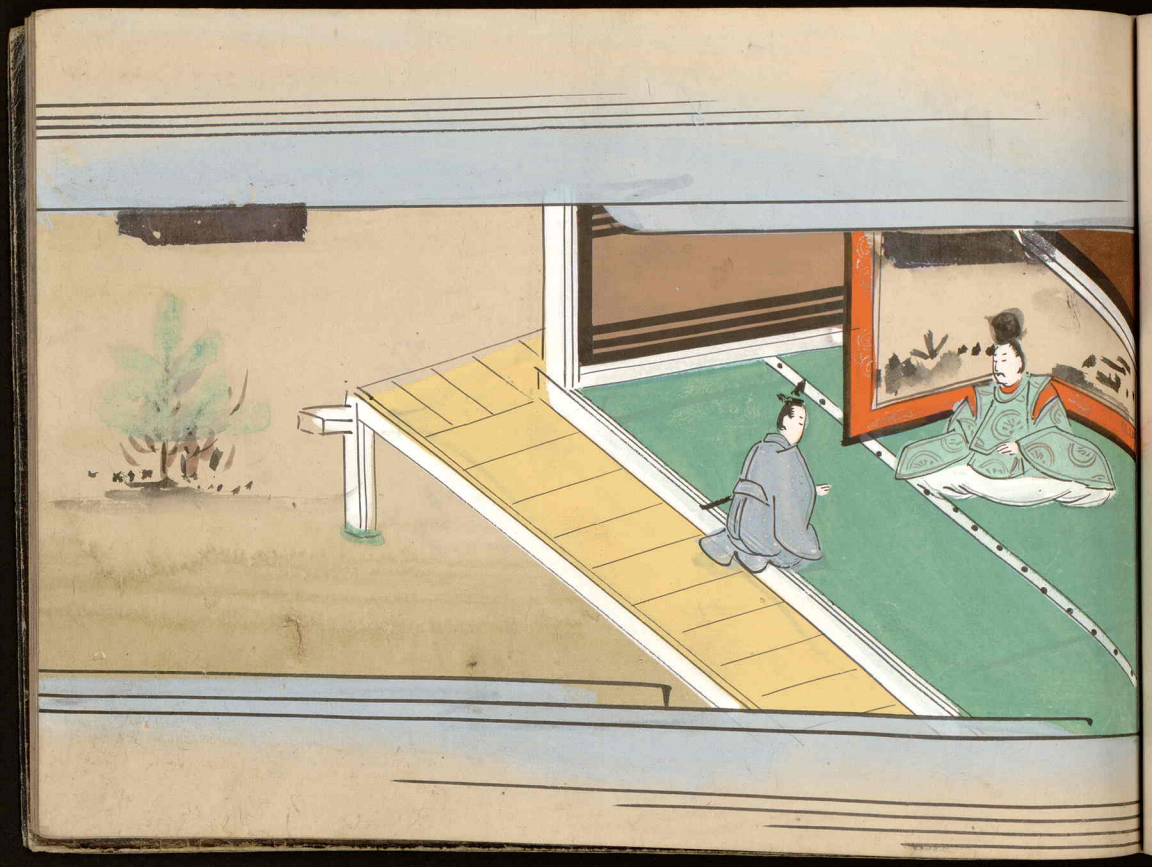
おしけのめくみてまことにあまる
へくのおうけあさましそきん
あもうひんよおりそてけま
やみのうすれ付すのこれを
こなすめくさなかやめの代
やうこれねとまよとかな
ままいてしけのことてつもき
てうそとするみ見かすゝと
ちよおりく八まんさ丸之
しはつとそのいのちさ
とすりもりくのもよふれ
とうんわくてまはらきく
ちゝのへとこあまらくの

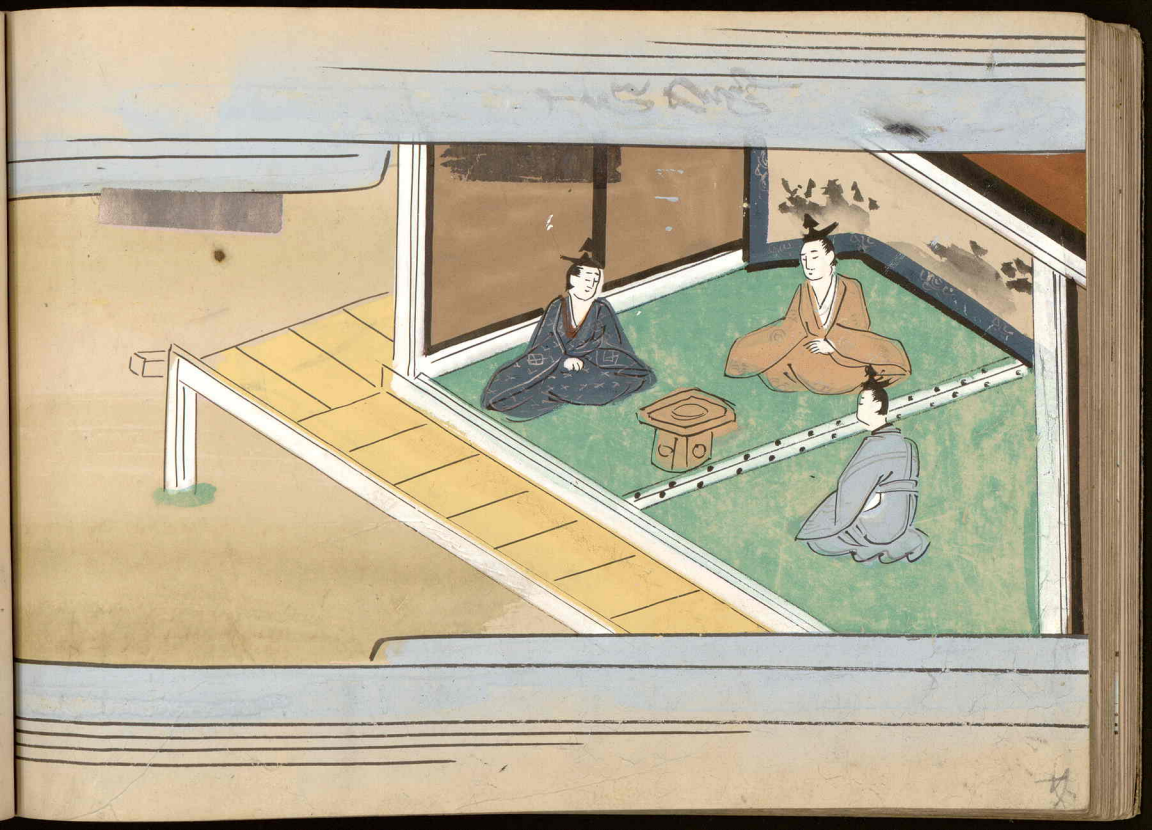
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

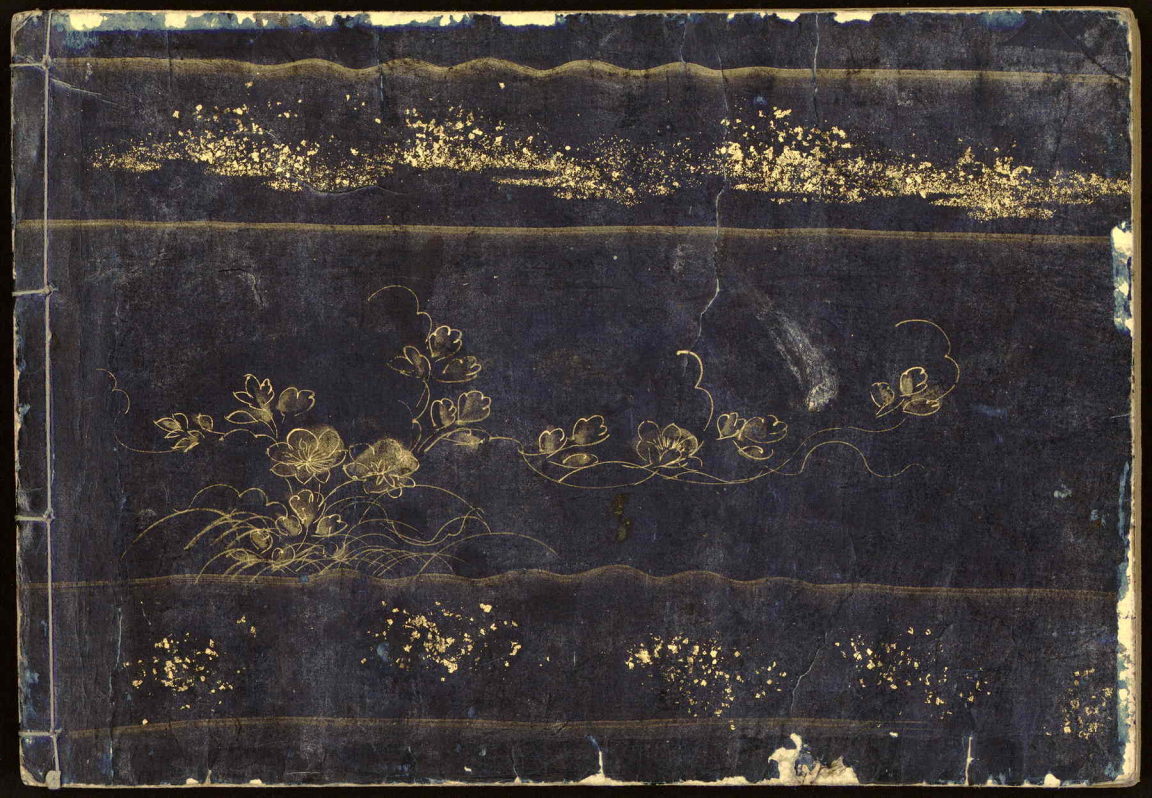


りのてまえをのこんとこの
ゆうしんをうるをそうん
とれがのうちをいとんやう
らいまんをのまとうりをも
ちやをんそうしのそくたち
てわうぶわうをうるわと
祖しらをもうしをうてと
ゆうをもちんけまてうを
てちうをそうをそのまへ
つをうちをうとくたをうさ
すゆのうをまをうをもと
らをのりてをゆくをうへ
ろうをものかをうをもら

うりとのゝさとりのまうれん
けうのことゝもくちにはは
ゆきくらんそのこゝろにし
こゆへてあまひらのくもく
ちてさゝきとゆきやなおもしと
あこうはやのしけまてなりの
やたこちめきそなこ二人つの
しらけらつきそあはまま
けさん々ちあんすらりちう織
ともかとこそかもらこんとひ
さんうりかとことらりきあし
うりとかひまつひちらはし
とまものうかりひのさんへうそ





御法にもあるらめと王のかへしはさりけり
わたらんとしもあらしとこそとひ
あそくはつるものゝ代らうま
うちきこえさせ給ふとおほさるゝ御と
ろくもあれとせめてさせ給へん
きこしめしつりけりのもゆるにて
為代まてあそうきこゆるさへ神
つきゝぬれはしりそしてゝ申させたまふを
いらのはそ天かへしやうてましとひ
ともうゝしきられぬわれなり
やうめてらつとそらへしと
うとあへいかしりなつゝこま
うつくしきやうそのきこえつたへ

羽黒山
金剛坊
法師